

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700549		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	三重県松阪市垣鼻町1638-52		
自己評価作成日	平成 27 年 8 月 18 日	評価結果市町提出日	平成27年11月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvoNoCd=2470700549-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 9 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型ということで自治会の行事にも参加しており、またこちらが主催する行事等にもお手伝いや参加をして頂き、共に地域を盛り上げている。医療面でも看護師と介護士が連携し、主治医といつでも連絡をとりあえる体制を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

松阪駅に程近く、付近には高校や中学校が隣接した文教地区の静かな住宅街に事業所が立地し、近隣に運営を一にする小規模多機能施設とデイサービスセンター「なごやか」を設置し、行事や職員研修会等を合同で開催する等、連携し協力関係を築いている。法人全体としては、特養ホームや福祉専門学校等を開設し、福祉・教育分野で大いに地域貢献を果たしている。開設後12年を経た事業所は、年度当初に職員の配置転換等で管理者とケアマネ2名が交代したが、新任者も経験豊富なメンバーであり、事業運営と利用者のケアに取り組んでいる。利用者が重度化傾向にある中で、活気ある生活を求めて外出支援を重点的に取り組んでいる。また、利用者の生活の場を変えることなく最後まで事業所で暮らすことを望む家族の希望に添って、看取り介護を主治医・看護師・職員が一丸となって実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、管理者・ユニット出勤者全員で運営方針・理念を復唱し、共有することで理念の理解と実績への取り組みの意識統一を図っている。	職員は、毎朝申し送りの際に全員で理念を唱和し、理念を十分に認識している。傍に寄り添っているだけで利用者が安心し心が和むように、職員はどんな時にも利用者の思いを受け止めて、寄り添うように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より自治会に加入し、自治会の一員として、自治会行事(溝掃除・草刈・防災訓練等)に出来るだけ入居者と参加している。	事業所と近距離にある同一法人の「なごやか」と合同で夏祭りを開催した際に、自治会にポスターを配布して地域住民の参加を募り、当日は住民と利用者が交流し楽しんだ。特に今年自治会青年部が組織され、夏祭りの際に協力を得ることができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、実習生の受け入れを積極的に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各ユニット活動報告・入居者個別ケア報告・入居者状況報告を行ったり、議題を設定し、職員が実践しているサービス内容について報告を行い、様々な立場からのご意見や改善点等を頂き、サービスの向上に取り組んでいる。	2ヶ月に一回会議を開き、市健康保健部介護保険課・包括支援センター職員、家族・利用者代表と職員が出席し、自治会長にも案内をしている。主に各ユニット毎の個別ケアと活動報告を行ない、話し合った上で提案された意見は取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保健部介護高齢課職員に、ホーム内の入居者・家族が抱えている問題や防災等を相談し、共に問題解決に取り組んでいる。	管理者は市の窓口に出向いて報告書等を提出したり、グループホーム部会に出席している。今年度空床が生じた際に担当者に相談・助言を得て実行し、今月満床になった。ケアマネジャーは利用者の介護認定更新の代行申請等を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止推進委員会を設置し、毎月話し合いを行なっている。	玄関は、日中施錠せず自由に入出入りができるが、各ユニットの入口は施錠し、屋外への外出を希望する利用者には職員が行動を共にして外出要求が実現出来るように支援している。ヒヤリハット事故報告会議を毎月開会し、早期対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行い、虐待の認識に誤解がないか職員間で確認・学習をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議時や勉強会で実際利用している制度について説明を行い、理解をしたうえで支援を行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	とくに必要と思われる事項(起こり得るリスクや入院時の対応、重度化に伴う対応について等)は、時間をかけて説明しご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等、コミュニケーションを常に図り、話しやすい雰囲気作りを行なっている。その際に出された意見や要望は、職員を通して申し送り、サービスに反映している。	家族から面会時等に利用者のケアに関する個別の要望は述べられるが、運営に関する意見や要望は殆んどないため、運営推進会議に毎回家族代表が出席し、家族の意見が伺えるように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とコミュニケーションをとるよう心掛けている。また、最終的には管理者が決定を下すことが多いが、各職員の意見や思いを尊重し、反映している。	毎朝の申し送りや月1回の職員会議等に於いて職員は意見を述べている。物品購入や行事及び個別ケアに関する意見が多い。今月から管理者は職員と個別面談を開始し、個々の職員の業務に対する意向を伺い、運営に反映したいと考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心をもって働き続けることが出来るように、管理者が勤務状況を把握し、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にスキルアップ支援チームを、ホームには委員会を設置し、法人内外の研修に積極的に参加できるよう計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県GH部会連絡協議会・松阪GH部会があり、その中で職員の資質向上につなげる為の研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報・実調報告書を基に、本人の不安や要望の把握に努め、情報収集し、本人がより安心して生活できるよう職員間で話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を理解し、職員間で対応策を考え、それに対する家族の意向を取り入れている。面会時等には、報告・意見交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族のニーズ見極め、介護的サービスや時には医療的サービス、必要であれば家族の了承のもと、物質的なサービスを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除等、家庭的なことで共に実施することが可能なことは行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が落ち着けるよう、面会時や、時には電話で話をして頂いている。また、月1度の近況報告や新聞等でその経緯を伝え、家族と共に本人の生活を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人が気軽に来訪できるような雰囲気作りを努めている。	利用者は、家族の協力を得て法事や墓参り、年末年始の一時帰省等が実現出来るように、職員は支援している。帰宅希望者には、電話にて利用者と家族が交流機会が持てるように職員が配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起き難い・仲が良い・楽しい等に配慮し、職員が間に入ったり、テーブルや席の位置を決めている。状況により、随時移動等の対応を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、退所後に相談等はないが、いつでも相談にのれるよう体制は整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言動から、思いの把握に努めたり、ベースに合わせることを行なったりしている。困難な場合でも、その方の立場に立ったり、安心できるような対応を行うことができるよう職員全体で考えている。	失語等で思いを表現出来ない利用者の気持ちを職員は推測して試行錯誤をしている。利用者の表情から適切な方策を見出したり気づきがあれば、ワーキングノートや介護日誌に記録し、他の職員に伝達して共有を計っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まず、実調報告書・フェイスシート等で大まかな把握をし、その後、生活の中での本人の言動や、面会時の家族との話から理解していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌・生活記録表(食事、与薬、排泄、バイタル、入浴)・ワーキングレポート・申し送りを利用し、1人ひとりの現状を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意見を聞き、それに加え、会議等で主に職員がその方の最前と思われる意見を出し合い、3ヶ月に1度見直しを行っている。そこで、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランに基づいてケアが提供され、モニタリングを実施して3ヶ月毎にケアプランの見直しを行っている。その際には、ケアカンファレンスに於いて職員で協議し、意見を反映したケアプランをケアマネが作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ワーキングレポート・介護日誌・介護記録・生活記録表等を利用して、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	指定の病院への通院や往診、入院準備、外出等、本人や家族の要望に臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共施設や近所のスーパーへ行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望がある場合は、継続してGHでも受診できるよう支援している。希望の無い場合は、GHの協力医をかかりつけ医として頂いている。	本人・家族の希望に基づいて掛かり付け医を決め、ほぼ全員が事業所の協力医に掛かっている。受診方法は基本的に家族の協力を得て通院するが、職員が連れて行く機会も多い。随時往診も受け、歯科や皮膚科の往診も受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りをはじめ、随時、報告・連絡・相談を行なっている。看護師の不在時には、申し送りノートの活用や、電話での対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、看護師又は職員が付き添い、介護サマリー等での情報交換が素早くできるように対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族に対して、契約時に看取りについて十分な説明を行なっている。また、その時が近づいてきた際には、家族との話し合いを十分に行い、家族の意向を踏まえた上で、医師や看護師と連携をとりながら取り組んでいく。	「認知症対応型共同生活介護事業に於ける看取りに関する指針」を作成し、目的、理念、看取り体制と終末期に於けるマニュアル等を詳細に規定し、家族に説明をしている。主治医を中心に、家族と共に職員が一丸となって看取り介護に取り組む、これまでに数名の看取りを経験した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生予防の為、日常の状態を把握するとともに、緊急連絡網やマニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、入居者・自治会・住民の方々と共に年2回の防災訓練を行っている。この際は、消防署の協力で避難経路の確認や、消火活動の訓練をしている。	毎年防災訓練は、事業所単独で実施するのではなく、自治会および関連事業所の「なごやか」と合同で実施している。昨年度の外部評価の課題である利用者の重度化に伴う非常口の段差解消については現在計画段階である。非常時の備蓄食料は準備中である。	非常時の備蓄食料の整備を早急に行なうとともに、災害時に地域の要援護者の一時避難所として事業所が地域貢献することを検討し、自治会に提案することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気をつけて、それぞれの方にあつた話し方で話すようにしている。プライバシーを損ねないよう個人的な空間はカーテンをする等工夫している。	家族が面会時には、プライバシーを配慮して場所を臨機応変に決めている。排泄や入浴介助時には必ずカーテンやドアを閉めるように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でさりげなく本人の希望を聞いたり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、とくに決まりはなく、1人ひとりの希望に沿った1日を過ごせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の希望通りにしている。とくに希望がなければ、季節的な物であったり、ゆったりと着脱ができる物を職員が選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	常にその方の状態を確認して、最前の食事を提供するよう努めている。また、限定はされるが、可能な場合は何名かの方と食事準備や片付けを共に行なっている。	日常の食事の献立作成と調理は職員が交代で実施し、法人の栄養士に助言を得ている。盛り付けや洗い物を手伝っている利用者もいる。2ユニットの中央の中庭でバーベキューや流しそうめんをして楽しみ、外食を楽しむ機会も度々ある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりが十分な摂取量が摂れるよう、状態に合わせて食事の形状や種類を工夫している。また、チェック表に記載し、その日の状態がどのようであったか確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で磨ける方は磨いて頂き、その後職員が確認している。義歯の洗浄は決まった日に洗浄剤を使用している。口腔ケアの介助が必要な方は、ガーゼを使用する等の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛け・誘導・見守りを行い、常にチェック表に記録している。その中で、1人ひとりの排泄パターンを把握して、なるべくトイレでの排泄に努めている。	トイレでの排泄を支援しているが、自発的にトイレへ行く利用者は少数であるため、職員が声かけをして排泄を促している。布パンツ着用者は4名程で、大半の利用者がリハビリパンツや尿パットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を使用した水分補給や、水分の摂取量に気をつけている。また、毎朝の申し送りや各職員の出勤時に排便の有無を確認し、看護師と相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望や気分を優先し、入浴を楽しんで頂いている。拒否がある方には無理強いせず、入れる日に入ってもらおうとする。	入浴は、午前10時からと午後2時半からと日に2回毎日実施し、夜間は行っていない。しばらく入浴していない利用者を優先的に誘っている。入浴を拒む利用者には、散歩から帰宅した後等タイミングを見計らって風呂場へ誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調に合わせ、傾眠状態があったり、希望があったりした際は居室で休んでもらっている。夜間はゆっくり眠ることができるよう、日中無理のない程度に、体操等をして活動的にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアル作成や処方箋のコピーは個人ファイルに綴じてあり、把握できるようになっている。服薬は、介助時にダブルチェックを行ったり、表に介助者の記名やチェックをしたりして、確認を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や花の水やり、カラオケ等、その方に合った役割作りや楽しみを提供させてもらっている。また、季節ごとの行事や外出で楽しく生活ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日ではないが、職員数に余裕があれば気候が良い時に近所への散歩に行っている。また、時折喫茶店でおやつを食べに行くこともある。	日常的には天候がよい日に全員で、または個別に近所を散歩したり、中庭に利用者職員が集まっておしゃべりしながら日光浴をしている。遠方への外出は、いちご狩りや伊勢神宮への参拝等を楽しんだ。事業所として外出支援を重点的に取り組むたいが、利用者が重度化傾向で外出機会が減少し、方策を検討中である。	利用者の重度化に伴う外出支援を職員のみで実行するのではなく、家族にも案内して参加を募り、家族の協力を得て実行する等、検討を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が買い物に行き、支払いも職員がしている。各入居者が買い物に希望されることはほぼなかった。買ってほしいと言われることはあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応できるようにしている。また、普段から家族様と連絡がとりやすい関係づくりに努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で使いやすいように工夫している。また、行事等に写っている入居者の写真を壁に飾り、思い出話ができるようにしている。また、季節により、入居者や職員が作った展示品を飾ることもある。	一日の大部分をリビングで過ごす利用者が多いので、時間によって音楽を流したり、利用者が好んで観る時代劇をテレビで放映したり、楽しく、居心地良く過ごせるように工夫をしている。壁面には利用者の写真や作品を掲示して、利用者が自分の生活の場＝家として意識できるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー・玄関ベンチ・畳コーナー・中庭等を利用し、1人で過ごしたり、仲の良い方たちとくつろいだり、自由に過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の家具や仏壇を置いたり、なじみのある物(家族の写真やぬいぐるみ、花等)を持ってきて頂いたりして、なるべく入居前の生活環境作りに努めている。	各室に共通して、エアコン・ベッド・洗面所・押入れが備わっている。その他、テレビ・テーブルと椅子・タンス・仏壇等の家具や身の回り品や家族写真等は、自宅から馴染みの物を持ち込んで、各自が自分の部屋を工夫し、居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札があり、トイレにはわかりやすい「お便所」のステッカーが貼ってある。廊下や風呂、トイレに手すりがあり、安全で自立した生活が送れるように工夫している。		